



生き活きまちづくりレポート

報告

被災時の 食事とトイレどうする 学習会開催

バッククッキングで
作ったランチ



最近の地震の多さに驚かされます。いつか来ると云われている直下型地震や南海トラフ地震。運よく家は倒壊しなくても電気、ガス、水道といったライフラインが止まってしまった時に困るのが食事とトイレ。海老名市の災害ボランティアネットワークのメンバーを講師に迎え学習会を開催しました。被災時に家にある卓上コンロ、鍋、食料品で簡単にできるバッククッキングを教えてくださいました。いわゆる耐熱性のポリ袋で作る湯煎料理です。今回はご飯、パスタ、親子丼の具、蒸し鶏、温野菜が1時間の間に出来上がりました。

作り方のコツを覚えれば、いろいろとバリエーションが広がりそう！ 鍋の湯で何度も調理でき、貴重な水も有効に使えます。実は以前にこの方法で蒸し鶏を作ったことがあるのですが、それまでの時間をかけていたやり方と味の違いがなく、最近はおっぱらこのバッククッキングです。

「温かい食べ物は、人を幸せな気持ちにさせてくれる」と講師の方の言葉。本当にそうだと思います。

試食の後はトイレの話と防災グッズなどを紹介して頂きました。段ボールで作ったトイレで凝固剤、ペットシートでの使い方を学びました。トイレの話で一番皆に伝えたいと思ったことは大きな地震があった時、下水道も使えない状況にあることが多く、そのようなときに水を流すと逆流してくることがある。特にマンションなどの集合住宅では下の階に迷惑がかかるので絶対に駄目ということで、これは声を大にして言いたい！普段から、いつ地震があっても大丈夫ように出かける時の持ち物にミニトイレ、ホイッスル、モバイルバッテリーなどを加えることも必要かなと思うようになりました。

そして災害は地震だけではなく、風水害の危険も考えておかなければなりません。なお、海老名市では避難所には「仕切り」があり、プライバシーも少しは守られると聞きました。これだけでも安心して避難できると思います。

災害は忘れた頃に来るのではなく、明日にも危険が迫っていることを忘れてはなりません。
(神崎)

沖縄の現状から見える日本の行方

昨年暮れ、写真展「石川真生 私に何が出来るか」で沖縄県民の置かれている現状を知りました。

沖縄県は1945年太平洋戦争末期に本土決戦の捨て石とされ、唯一地上戦を経験しました。県民の4人に1人が犠牲となりその多くは民間人でした。その後1972年に本土復帰となるも日本の国土のたった0.6%の沖縄県に米軍基地の70%が未だに集中しています。爆音、航空機事故や機体部品の落下、性犯罪や殺人事件など深刻な被害が後を絶たず危険と不安の中で暮らしています。近年台湾有事に備えて宮古島や石垣島、与那国にミサイル基地や弾薬庫、陸上自衛隊訓練場が建設され自然豊かな島の平穏な暮らしが一変しています。また普天間基地移設先の辺野古基地建設は県民の意思を無視して岸田政権は埋め立て工事を強行しました。

このような状況から県民は、また戦争の激戦地になるのではと危機感に脅かされています。「この状況と不条理な思いを本土の多くの人々に知ってほしい」と、写真家石川真生さんが「写真展」で、映画監督の三上智恵さんが「戦雲」の上映で、沖縄在住の2人が訴えています。私たちは、日本が戦争のできる国になりつつある現実を直視し、再び戦争になるとどうなるのか？ 国民一人ひとりの考えや行動に託されています。
(平和部会 齊藤)

PFASの危険性

PFASは、有機フッ素化合物の総称でPFOS、PFOA等があります。発がん性・不妊などの生殖毒性・胎児や子供の発達を脅かす等多くの健康上のリスクがあり、人体と環境への汚染が広がっています。ほぼ分解されずに地球全体に広がっており第2のダイオキシン問題と言われています。

身近な生活用品（防水スプレー、フライパンなどのフッ素樹脂加工品等）に使われており、これらはできるだけ避けたいです。また工場排水や、軍事基地・大型駐車場などでの泡消火剤の使用により地下水や水道水での顕著な汚染が見つかっています。神奈川県内でも地下水や、河川などから検出されており、2022年には厚木基地から基地外への流出がありました。

身近なところに高濃度のPFAS汚染があることから海老名市環境政策課のホームページを調べてみました。

令和5年度有機フッ素化合物調査結果

10月20日：亀島自然公園(地下水)で25^{ナノグラム}g/L(上今泉6丁目)

11月6日：鳩川馬船橋下流(河川)42^{ナノグラム}n g/L(上郷3丁目)

「調査の結果、暫定目標値(50^{ナノグラム}n g/L)の超過はありませんでした」としてはいますが、数値が出ていることが問題だと思います。

海老名消防署にも泡消火剤について聞き取りしたところ、PFASは現在使用されていないという事でした。身近なものにもあるPFAS、見過ごせない大きな問題です。
(環境部会)



小規模の介護事業所が悲鳴!!

介護保険制度は、3年に一度制度改定があり2024年度は改定期に当たります。今回は介護報酬の改定「訪問介護は基本報酬を引き下げ」が決定しました。小規模介護事業所からは「納得がない!! これでは倒産に追い込まれてしまう」と悲鳴が上がっています。

小規模介護事業所の訪問介護は、地域に点在した訪問先が多く、移動時間やガソリン代に対して十分な賃金への反映が難しく約40%が赤字経営の実態です。しかし大規模事業所の多くは「サービス付き高齢者向け住宅」の併設事業所のため効率的に訪問ができ利益率が高く、双方を一緒にした訪問介護の評価が今回問題になっています。引き下げることは本末転倒です。基本報酬を引き上げることが人材確保や安定した運営に繋がります。

業所が存続できます。多様な介護事業所があることは、老後の安心につながります。

2025年は団塊の世代が全て75歳以上となるため、益々訪問介護が必要です。しかし介護職は賃金の低さから集まらず、介護事業所の倒産が増えていきます。今回の基本報酬の引き下げは、介護職の誇りを欠き人材確保が一層難しくなります。地域密着型の小規模事業所がなくなることは、高齢社会の不安や介護保険料を納めても介護サービスが受けられない可能性があります。また介護難民や介護のための離職者の増加が懸念されます。

そのためにも、介護職の基本報酬の引き上げと処遇改善を図ることが必要です。国民が望む介護保険制度の充実につながるよう声を上げていきます。

(共生部会 斉藤)

開催日

5/6(月)

永池川 川歩き

報告



永池川のナマズ

今年はスタッフに新メンバーも加わり、川歩きを40名で開催しました。当日は曇り空で風も強く、川に入るのも心配な天気でしたが、参加者は、川に入ると夢中になり、あっという間に時間が過ぎていきました。天候や見た目と反して思った以上にオイカワやアブラハヤなど魚9種、他ザリガニやヤゴなどたくさんの水生生物を採ることができました。その中でも体調40cmはあるナマズが獲れたことにビックリしました。その後の観察会や講師の先生の話からも魚や生物の存在が環境に大きく関わっているのを改めて痛感しました。ゴミは少なかつたようですが、普段は故意に投棄されており、気が付いた時に回収したり、大雨で流されたためです。この企画を続けることで、永池川の環境が守られ、その存在をもっと多くの人に理解されることを願っています。(川歩きの会・楨)

脱原発 福島を忘れない



3月11日に放射線量測定をしました。

市は放射線量測定を東日本大震災から10年以上を経過し、定点測定で一度も暫定基準値の超過はないことを理由に2024年度から測定を休止することにしました。

海老名ネットは原発再稼働を進める国の政策に反対し、あえて放射線量測定を続けています。海老名市温故館、国分寺史跡公園等8か所で高さ50cmと1mを測定しました。8か所の結果は、0.015~0.061マイクロシーベルト/時の範囲でした。(基準値は0.23マイクロシーベルト/時)

今年1月1日に能登半島地震と、津波が起こりました。

その被害の大きさは計り知れないものです。能登半島には北陸電力志賀原子力発電所があり、モニタリングポストの通信障害はあったものの無事だったということで、まさかの事態にならなかったことは幸いです。東日本大震災と福島原発事故から13年経ちましたが熊本地震、そして能登半島地震等、日本の各地で地震が起こっています。地震国日本に原子力発電所が全国各地数多くあり、地震が起こるたびに不安を感じます。福島原発事故の時は日本壊滅さえも予想されました。想定外のもの事態は起こりえます。原発から脱却し、原発に因らないエネルギー政策へ転換することが必要です。(環境部会 高林)



ノーモア・ウォー

世界の各地で紛争が起きています。イスラエルのガザ攻撃はユダヤ人のホロコーストへの報復を感じさせます。また、ロシアは核兵器使用をチラつかせています。5/16・17広島県福山市のホロコースト記念館と被爆地広島を訪ねました。

第2次世界大戦中、ナチスドイツに600万人ものユダヤ人が大量虐殺(ホロコースト)されました。なぜホロコーストが起きたのか? 記念館資料にヨーロッパにはユダヤ人への偏見があり、1930年頃のドイツは失業者が多く、社会不安・国民の不満のはけ口をユダヤ人に被せ、ユダヤ人絶滅政策をとったと書かれています。ヒトラーは選挙で選ばれ、民主主義憲法の典型「ワイマール憲法」がありましたが、それを無視し続けました。こうした為政者対

して、黙って見ていた一般市民もホロコーストを許したのでは? 「おかしい、ハテ?」と思ったら声を上げていく市民でありたいと思います。

ホロコースト記念館はアンネ・フランクの父オットーに出会った大塚信氏がその平和を希求する人柄に惚れて開館し、平和・人権学習の場となっています。イスラエルとパレスチナは過去に囚われることなく、宗教・人種の壁を越え、停戦にと願うばかりです。

広島平和記念資料館では、原子爆弾の高熱と爆風で一瞬に人が影となった「人影の石」展示物や、胎内被曝により小頭症で生まれた子どもの写真などから核兵器の非人道性について考えさせられました。現在、核戦争になれば核の雲は52日間で地球を一周し気温を著しく低下させる「核の冬」展示は人類の滅亡を示唆しているのでは? 2023年

11月核兵器禁止条約締結国会議宣言「核抑止力を正当化する試みは核拡散の危険性を高めている」の展示は人類の進むべき道を示していると思いました。

2022年に開館した「被曝遺構展示館」には平和公園の下から掘り出された道路跡や庶民の住居跡等が展示されています。1発の原子爆弾は日常生活が営まれていた町の上に落され、一瞬のうちに多くの命が失われました。平和公園には小・中学生や各国から来場者が多く、被曝の実相をしっかりとくみ取って世界が核廃絶へ向かうことを期待できます。1982年5月、国連会議で被爆者の山口仙二が自身の被曝写真を見せながら「ノーモア・ウォー」と訴えました。ホロコーストも被爆者も戦争が無ければ起きなかったことです。世界の動きに目を見張り平和のたすきを繋げていきたい。(平和部会・西田)



国分寺史跡隣接の マンション建設計画のその後

国分寺史跡の隣接地に14階建て43メートルのマンション計画は、景観を損ね生活環境への影響が大きいことなど近隣住民の強い反対により開発業者は、2024年1月に市へ「開発事業廃止届」を提出した。国指定の文化財への市民の思いが実を結んだ結果となった。隣接地は、戸建て住宅になる予定。

おしらせ

地域で見守る「認知症」

団塊世代が後期高齢者となり、海老名市では2024年に認知症3,421人になります。他人ごとではない認知症を理解するために「認知症サポーター養成出前講座」を下記の通り開催します。誰もが地域で暮らせる社会を目指しましょう。

日時: 7月4日(木) 10時~12時

場所: 海老名市文化会館小ホール棟402室

講師: 南地域包括支援センター職員・在宅医療相談室職員

参加費: 無料 〆切6/30

問い合わせ: 090-6125-3378 (西田・共生部会)

編集後記 「運転免許証を返納したら移動手段はどうなるのか?」と時々考える。返納はまだ先のことと思っていたころはバスやタクシーでどうにかなると思っていたが、現在はドライバー不足の時代。出来るだけ自分の足で歩けるように努力するしかないのかな。(市川)

*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。お手伝いしていただける方を募集しています。事務局までご連絡ください。